

3 . 平成 1 7 年度事業計画書

1 . 概況：重点活動

平成 17 年度は日本の電子計算機 50 周年と学会創立 45 周年の記念すべき年に当たる。しかしながら本会を取り巻く現在の環境は必ずしも明るいものにはなっていない。ここ 10 年余りの産業界の会員減少は相変わらず継続している。また次代を担う学生たちにとって、情報分野が以前ほど魅力を感じる分野でなくなっているようにも見える。その一方で、産業界、あるいは一般社会における情報分野への実需は極めて活発なものがある。IT 分野の中核を担う本会は、このような現状を認識し、技術応用分野への活動の拡がりを図るとともに、学生への夢の提供、高校以下の情報教育の在り方等へも積極的に活動を展開していきたい。

重点活動として以下を設定する。

(1)学生会員の獲得と育成、(2)研究活動の展開、(3)教育活動の展開、(4)技術応用活動と会員サービス

1.1 学生会員の獲得と育成

学会の活性化と財務基盤の安定化のためには学生会員の獲得とその育成が肝要であるとの認識のもとに、19 年度末には学生会員数が 3,000 名（16 年度末現在：2,168 名）となるよう各支部ならびに研究会の協力を得て学生会員の獲得と育成を推進する。

その具体的な施策の一つとして、17 年度から、学生会員の研究会登録費を 1 研究会のみ無料とする。

また、学生会員増強タスクフォースを発展させた「学生会員育成委員会」を設け、継続的な勧誘のための推進体制を整えるとともに、学生会員の正会員への移行・定着を促進させる。

1.2 研究活動の展開

- (1) 研究会活動の多様化を目指した新規分野の開拓をさらに推進する。
- (2) 各領域委員会ごとに委員会を開催し、領域および研究会の運営方法の充実を図るとともに、関連する学会活動と連携しつつ研究会活動の活性化を図る。
- (3) 領域制、研究活動（研究グループ制度の弾力化など）の見直しを行う。
- (4) 学生会員に開かれた研究会を目指し、前述の学生会員の 1 研究会登録費を無料とする施策の支援を得て、学生会員の獲得と育成を推進する。
- (5) トランザクション（研究会論文誌）ならびに研究報告の Web 化を推進する。
- (6) 研究会への案内として調査研究活動の Web ページ（英文を含む）の充実を推進する。
- (7) FIT、全国大会、国際、情報処理ハンドブック、技術応用活動等、関連諸活動との連携と協調を強化する。

1.3 教育活動の展開

教育活動を体系化して強化するとともに、その活動と成果を学会の内外に積極的に広報して教育活動の重要性を広くアピールしていく。

(1) 大学・大学院での専門教育向けの活動

- ・日本技術者教育認定機構（JABEE）の諸活動を通して大学での専門教育の質的向上を推進する。
- ・審査の実施、審査員の養成、受審コンサルテーションの実施などの業務を行う。
- ・情報および情報関連分野で習得すべき知識・能力の最低水準のコンセンサス形成を目指す。
- ・大学院教育の質的向上に向けて、認定の実施も含めた方策の検討を進める。
- ・J97 の後継となるべき専門教育カリキュラム策定について、産学協同での作業着手を目指す。

(2) 社会人向けの活動

- ・経済産業界が進める IT スキルスタンダード (ITSS) の活用推進への対応，高度 IS 人材育成への支援などについて，具体策の立案を進める。

(3) 初等・中等教育，大学一般向けの活動

- ・高等学校の教科「情報」のあり方について，学会としての具体案の準備を進める。
- ・小学校・中学校での教育の情報化と情報教育について社会に提言できるだけ活動を展開する。
- ・初等・中等教育での状況も踏まえて，大学での一般情報処理の新しい姿を提言するとともに，教科書など教材の整備・提供に努める。

1.4 技術応用活動と会員サービス

(1) 実務家への学会のビジビリティ向上を一步進めて，ソフトウェアジャパン等の具体的な活動を学会へのポータルとして，実務家が集えるような IT プロフェッショナル・コミュニティ作りの推進を目指す。

- ・「ソフトウェアジャパン 2005」を実施する。
- ・実務家向けのホットなテーマを持ったワークショップ等を適宜企画する。

(2) 日本の電子計算機 50 周年を記念し，国産計算機の展示を含めた記念全国大会，記念 DVD 出版，情報処理ハンドブック出版を推進する。

2 . 会員の異動予想

会員種別	会員数		増減数	備考:17 年度の異動				
	17 年度末	16 年度末		入会		退会		除名
名誉会員	42	39	3	3	正会員から異動2, 一般から 1	0		
正会員	20,179	20,812	-633	800 650	学生会員から異動	1,400 2	名誉会員に異動	681
学生会員	2,606	2,168	438	1,300		200 650	正会員に異動	12
準会員	59	57	2	10		4		4
個人会員 計	22,886	23,076	-190	2,763		2,256		697
賛助会員 (口数)	323 (456)	321 (454)	2 (2)	10 (10)		8 (8)		

* 正会員には終身会員を含む。

3．会議等に関する事項

3.1 第48回通常総会

平成17年5月20日(金)に、学士会館(東京都千代田区)で開催する。

3.2 理事会

年度間に6回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

3.3 各種委員会

必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

4．事業の状況：研究・調査ならびに研究発表・学術講習会などの開催(定款5条1号)

4.1 調査研究活動

(1) 領域委員会，研究会，研究グループ

3領域，35研究会(新設2)，4研究グループ(新設3)により活動を推進し，次の6点を重点事項として取り組む。

新規分野の開拓

学生会員の取り込み

領域制，研究活動(研究グループ制度の弾力化など)の見直し

トランザクション(研究会論文誌)，研究報告のWeb化(電子化委員会との連携)推進

調査研究のWebページの強化(研究会への案内として)

関連諸活動との連携と協調(FIT，全国大会，国際等)の強化

[調査研究運営委員会：研究グループ(1)(括弧内は英略称)]

*新設：福祉社会システム実務(WSS)研究グループ

[コンピュータサイエンス領域：研究会(9)，研究グループ(1)]

データベースシステム(DBS)，ソフトウェア工学(SE)，計算機アーキテクチャ(ARC)，システムソフトウェアとオペレーティング・システム(OS)，システムLSI設計技術(SLDM)，ハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)，プログラミング(PRO)，アルゴリズム(AL)，数理モデル化と問題解決(MPS) 各研究会

*新設：組込みシステム(EMB)研究グループ

[情報環境領域：研究会(15)，研究グループ(1)]

マルチメディア通信と分散処理(DPS)，ヒューマンインタフェース(HI)，グラフィクスとCAD(CG)，情報システムと社会環境(IS)，情報学基礎(FI)，オーディオビジュアル複合情報処理(AVM)，グループウェアとネットワークサービス(GN)，分散システム/インターネット運用技術(DSM)，デジタル・ドキュメント(DD)，モバイルコンピューティングとユビキタス通信(MBL)，コンピュータセキュリティ(CSEC)，高度交通システム(ITS)，高品質インターネット(QAI)，システム評価(EVA)，ユビキタスコンピューティング(UBI) 各研究会

放送コンピューティング(BCC)研究グループ

[フロンティア領域：研究会（11），研究グループ（1）]

自然言語処理（NL），知能と複雑系（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），*新設：エンタテインメントコンピューティング（EC），*新設：バイオ情報学（BIO） 各研究会

*新設：ネットワーク生態学（NE）研究グループ

(2) トランザクション（研究会論文誌）の発行と計画

次 5.3 項に掲載する。

(3) シンポジウム・講習会等（28 件）

シンポジウム・講習会等名	主催研究会略称	期 間	場 所
ITS 産業フォーラム	ITS	H17. 4.15(金)	横須賀リサーチパーク
先進的計算基盤システム シンポジウム SACSIS 2005	ARC,OS,AL, PRO,HPC	H17. 5.18(水) ~ 20(金)	つくば国際会議場
グラフィクスと CAD / Visual Computing 合同シンポジウム	CG	H17. 6.16(木) ~ 17(金)	JA 長野県ビル
マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO 2005)シンポジウム	DPS,GN,DSM,MBL, CSEC, ITS,QAI,UBI	H17. 7. 6(水) ~ 8(金)	花巻南温泉ホテル 志戸平
第 8 回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2005)	CVIM	H17. 7.18(月) ~ 20(水)	兵庫県立淡路夢舞台 国際会議場
第 10 回ヒューマンインタフェース プロフェッショナルワークショップ	HI	H17.7.21(木) ~ 22 日(金)	未定(長野県白馬)
DA シンポジウム 2005	SLDM	H17. 8.24(水) ~ 26(金)	遠鉄ホテルエンパイヤ (浜松)
情報教育シンポジウム	CE	H17. 8.21(日) ~ 23(火)	未定(北海道)
エンタテインメントコンピューティング 2005	EC	H17.9.15(木) ~ 17(土)	関西学院大学
組込みソフトウェアシンポジウム 2005 (ESS2005)	SE	H17.10.17(月) ~ 19(水)	日本科学未来館
コンピュータセキュリティシンポジウム 2005	CSEC	H17.10.下旬 (未定)	未定
MPS シンポジウム	MPS	H17.10. (未定)	未定
画像符号化シンポジウム(PCSJ)・映像 メディア処理シンポジウム(IMPS)	AVM	H17 11. 9(水) ~ 11(金)	浜名湖ロイヤルホテル
コンピュータシステム・シンポジウム	OS	H17.11.17(木) ~ 18(金)	つくば国際会議場
グループウェアとネットワークサービス ワークショップ 2005	GN	H17.11.10(木) ~ 11 日(金)	未定
第 10 回ゲームプログラミング ワークショップ	GI	H17.11.下旬 (未定)	箱根セミナーハウス
デジタルドキュメントシンポジウム 2005	DD	H17.11.25(金)	国立情報学研究所
マルチメディア通信と分散処理 ワークショップ	DPS	H17.11.30(水) ~ 12. 2(金)	ホテルパシフィック沖縄
データベースと Web 情報システムに 関するシンポジウム DBWeb2005	DBS	H17.12. 1(木) ~ 2(金)	日本科学未来館
分散システム / インターネット運用技術 シンポジウム 2005	DSM	H17.12. 8(木) ~ 9(金)	武蔵大学
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2005)	CH	H17.12.16(金) ~ 17(土)	東京大学史料編纂所

高度交通システム 2006 シンポジウム	ITS	H18. 1.20(金)	日本科学未来館
2006 年情報学シンポジウム	FI	H18. 1.16(月) ~ 17(火)	日本学会会議講堂
ハイパフォーマンスコンピューティングと 計算科学シンポジウム(HPCS2006)	HPC	H18. 1. 下旬	未定
ウィンターワークショップ 2005	SE	H18. 1. (未定)	未定
ITS ミニシンポジウム 2(仮称)	ITS	H18.2.17(金)	未定
インタラクション 2006	HI,GN	H18. 3. (未定)	未定
情報学システムと社会環境 チュートリアル(仮)	IS	未定	未定

4.2 教育活動

教育活動は学会の基幹活動の一つである。情報処理教育委員会の傘の下で行われてきた教育活動を体系化して強化するとともに、その活動と成果を学会の内外に積極的に広報して教育活動の重要性を広くアピールしていく。独自に収入が得られる道の拡大を図りつつ、教育活動予算を学会の一般予算の中に位置づけて学会の安定した財政基盤の確立にも資する方向を探る。

(1) 大学・大学院での専門教育向けの活動

日本技術者教育認定機構（JABEE）の諸活動を通して大学での専門教育の質的向上を推進する。そのための委員会を新たに設け、財政的基盤の確立も目指しつつ、審査の実施、審査員の養成、受審コンサルテーションの実施などの業務を行う。情報および情報関連分野で習得すべき知識・能力の最低水準のコンセンサス形成を目指して、シンポジウム等を開催する。大学院教育の質的向上に向けて、認定の実施も含めた方策の検討を進める。

J97の後継となるべき専門教育カリキュラム策定について、関係省庁とも連携して産学協同での作業着手を目指す。

(2) 社会人向けの活動

技術士の CPD（Continuing Professional Development）に対する対応、経済産業界が進める IT スキルスタンダード（ITSS）の活用推進への対応、高度 IS 人材育成への支援などについて、関係する学協会・団体と協力関係を築きつつ、部分的な試行も行いながら、具体策の立案作業を進める。

科学技術振興機構（JST）から受託する「Web ラーニングプラザ」の教材制作を継続する。IT 業界で多数を占めるといわれている、大学で情報専門教育を受けることなく IT 業務に携わっている大学卒業生実務者に対する情報技術の基礎教育コースの内容検討に着手する。

(3) 初等・中等教育、大学一般向けの活動

高等学校の教科「情報」のあり方について、対応委員会を設けて、近々に想定される指導要領の見直しの際に学会としての具体案が提出できるよう、準備を進める。小学校・中学校での教育の情報化と情報教育について望ましい姿を社会に提言できるだけの活動を、関係の学協会と連携して展開する。

初等・中等教育での状況も踏まえて、大学での一般情報処理の新しい姿を提言するとともに、教科書など教材の整備・提供に努める。

4.3 事業活動

下記の各催しについて、活性化と財務改善を検討のうえ実施する。

(1) 第4回情報科学技術フォーラム (FIT2005)

会期：平成17年9月7日(水)～9日(金)，会場：中央大学(後楽園キャンパス)

(2) 第68回全国大会

会期：平成18年3月8日(水)～10日(金)，会場：工学院大学(新宿キャンパス)

(3) 学会創立45周年記念イベント

コンピュータ生誕50周年記念シンポジウム

会期：平成18年3月7日(火)，会場：工学院大学(新宿キャンパス)

上記シンポジウム併設展示会

会期：平成18年3月7日(火)～8日(水)予定，会場：工学院大学(新宿キャンパス)

記念論文募集，記念資料集発行予定

(4) 連続セミナー2005

全体(統一)テーマ：組み込みソフトウェア・システム

	開催時期	各回テーマ	コーディネータ
第1回	平成17年6月	「組み込みソフト基礎と各社の状況」	田丸喜一郎(東芝)
第2回	平成17年7月	「組み込み用OSの基礎と応用(リアルタイム, Linux)」	中本幸一(兵庫県立大)
第3回	平成17年9月	「組み込み用LSI」	富山宏之(名大)
第4回	平成17年10月	「組み込みソフト開発手法・検証ツール」	岸 知二(北陸先端大)
第5回	平成17年12月	「組み込みソフト開発事例：組み込みOS系」	中島達夫(早大)
第6回	平成17年12月	「組み込みソフト開発事例：コピキタス系」	中島達夫(早大)

5,6回は2日連続開催予定

(5) プログラミング・シンポジウム

第47回プログラミング・シンポジウム

会期：平成18年1月10日～12日，会場：(未定)

夏のプログラミング・シンポジウム

会期：平成17年9月の3日間，会場：長野県(予定)

テーマ：プログラミング道：その原点・その道を極める

情報科学若手の会

会期：平成17年8月または9月，会場：未定

4.4 歴史調査活動

(1) 歴史資料の収集・整理・保管

(2) 「コンピュータ博物館」の充実

歴史的コンピュータの年表および写真に「磁気テープ，磁気ディスク装置，プリンタ」を追加する。

(17年度科研費申請)

オーラルヒストリーの追加とオーラルヒストリー小委員会設立

英文化の充実

(3) 歴史関係記事(解説・論文)の掲載方法の検討

5 . 事業の状況：会誌および学術図書の刊行（定款 5 条 2 号）

5 . 1 会誌「情報処理」(月刊)

(1) コンテンツ

17年度は航空業界や電力業界，医療業界などIT化がめざましい業界に焦点を当て，バラエティに富んだ記事構成を目指す。また，前年に引続き，編集長のイニシアティブを發揮しやすい体制，本会議主導の内容構成により会誌の充実に務め，会員増加の一助となるよう努力する。

(2) 会誌とオンデマンド

前年に引続き，BookParkを通じたオンデマンド出版を，電子化委員会と密接な連携を図りつつ，柔軟な頒布形態とする。

(3) 広報活動

今年度から始めた日経ITプロへの記事掲載をより充実させ，非会員の入会促進を図る。また，昨年を引き続き会誌，IP SJメールニュース，Webサイトの連携を深め，IP SJメールニュースへの広告掲載，Webサイトへのバナー広告掲載の魅力を高めるとともに，広報活動に一層努力し，広告収入増の一助としたい。

5 . 2 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」

「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」の刊行（月刊）を継続する。

電子ジャーナルとして刊行が始まった英文論文誌の刊行体制を確立し，諸整備を行う。

論文投稿査読管理システムの運用のための準備を整える。

情報関係学会英文論文合同アーカイブズ（IT アーカイブズ）刊行に積極的に参加する。

会員サービス向上のために論文査読体制の強化を検討する。

特集号企画の強化を検討する。

5 . 3 「情報処理学会論文誌（トランザクション）」

発行の安定性と持続性，ジャーナルとの協調，発行部数拡大を目標に，現在の 5 誌の発行を計画し，このほか新規発行計画を促進する。

・プログラミング（PRO）	年間発行回数：4
・数理モデル化と応用（TOM）	年間発行回数：3
・データベース（TOD）	年間発行回数：4
・コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	年間発行回数：3
・コンピューティングシステム（ACS）	年間発行回数：4

5 . 4 出版活動

(1) 「情報処理ハンドブック」の発行

学会創立 45 周年事業の一環として「情報処理ハンドブック」の編纂に向け具体的な検討を開始する（発行は 18 年度予定）。

出版委員会で出版方針を具体化し、研究会などの協力を得て編纂委員会を立ち上げる。
前 (2) 項の検討結果については、適宜理事会に報告、または承認を得ながら進める。

(2) 45周年記念 DVD の発行

平成 18 年 3 月開催の第 68 回全国大会に合わせ、記念 DVD を作成販売する。

収録：研究報告約 28,000 件（創刊時から現在までの 32 年分）および機関誌・トランザクション
約 4,900 件（前回 2000 年の DVD 収録以降から現在まで）

検索対象：タイトル等の書誌情報およびアブストラクト（フリーワードによる検索可能）

(3) 教科書シリーズの継続発行

引き続き情報処理教育委員会と連携をとりつつ、年 3～5 冊のペースで発行する。

(4) 英文図書：“Advanced Information Technology Series”

英文図書出版の主目的は、情報処理学会関連の研究動向を海外に広く情報発信することであり、その
ためにも海外に広い販路を持つ出版社から刊行することが重要であるとの認識に立ち、前年同様継続し
て刊行を行う。2 年間で 5 冊の発行を目指す。

5.5 著作権

転載許可手続きのガイドライン作成および有料化の検討、これに伴う著作権規程の整備等を行う。

6. 事業の状況：標準化の推進ならびに普及啓蒙（定款 5 条 3 号）

6.1 情報規格調査活動

(1) 国際活動への積極的貢献

国際会議の場などで情報収集に努め、機会を逃すことなく Secretariat, Chairman, Convener, Project Editor を積極的に引き受ける。

Accessibility など新規分野への取り組みに積極的に参加協力してゆく。

(2) 電子政府への協力

昨年度は整理体系化が終了した住基ネットに使用されている文字字形を「文字情報公開システム」に搭載し、一般の人が探したい文字字形を検索できるかどうかを確認するために幾つかの省庁を対象に試験的な公開を実施した。今年度は、整理体系化が一段落した戸籍統一文字を「文字情報公開システム」に追加するとともに、当該事業の最終年度として本格的運用に向けて準備を進める。

(3) 委員会運営の効率化

長期にわたる景気の低迷や大学の独立法人化により、これまで以上に委員会活動を効率化することが求められている。特に、企業から参加する委員にとって当調査会の活動に割ける時間が制限を受けるようになり、今まで以上に効率的な委員会運営が喫緊の課題となっている。そのために、当調査会として可能な方策を検討してゆく。

7 . 事業の状況 : 情報技術関連の国際学協会への加盟ならびに連絡・協力 (定款 5 条 4 号)

7 . 1 国際活動

(1) IEEE-Computer Society との連携・協力

IEEE-CS と本会が founder (毎年共催 , 第 6 回目) の国際会議を開催する。

The 2006 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2006)

対象分野 : Internet の Infrastructure と Applications

開催日 : 2006 年 1 月 23 日 (月) ~ 27 日 (金) , 開催地 : アメリカ (フェニックス) , 参加予想 : 150 ~ 250 人

General Chairs Shinji Shimojo (IPSJ) , Joe Urban (IEEE-CS)

Program Chairs Haruo Takemura (IPSJ) , Patrick Bobbie (IEEE-CS)

全国大会で IEEE-CS 会長の招待講演を行う。

(2) アジア地域学協会との連携・協力

Korea Information Science Society (KISS) との連携・協力

双方の全国大会において交互に会長を招聘し招待講演を実施する。17 年度は 秋に本会会長が KISS にて招待講演を行う。

South East Asia Regional Computer Confederation (SEARCC) 活動への参加

2005 年オーストラリア , 2006 年スリランカ , 総会への参加を予定する。

(3) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の年 1 回開催される総会 General Assembly (GA) および理事会 Council に参加する。

各 TC 日本代表により TC-meeting に参加する。

IFIP 活動報告を年 1 回会誌に掲載する。また , 学会 Web 等を利用した IFIP 活動の情報発信を行う。

(4) その他

国際会議の開催 (3 件)

・ Second International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2005)

開催日 : 2005 年 4 月 13 日 (水) ~ 4 月 15 日 (金) , 開催地 : 大阪コンベンションセンター

・ CollabTech2005

開催日 : 2005 年 7 月 15 日 (金) ~ 7 月 16 日 (土) , 開催地 : 江戸東京博物館

・ International Conference on Entertainment Computing (ICEC)

開催日 : 2005 年 9 月 19 日 (月) ~ 21 日 (水) , 開催地 : 関西学院大学

The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

年 4 回程度発行される News Letter の発送

他海外学会との協力関係継続

ACM , CSI (インドコンピュータ学会) , ASTI (フランス情報科学技術協会) との協定 (覚書) 継続。機関誌の相互発送等。

8．事業の状況：関連学協会との連絡および協力（定款5条5号）

8．1 関連学協会・日本学術会議

(1) 電気・情報関連学会連絡協議会および日本工学会への参加

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会（情報・システムソサエティおよびヒューマンコミュニケーショングループ）との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前4.3項参照）」他，研究発表会および学術講習会において適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議への協力

8．2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜，会議の協賛後援等を行う。

9．事業の状況：その他，目的を達成するために必要な事業（定款5条6号）

9．1 入会促進・広報活動

(1) 学生会員の獲得と育成

重点活動（前1.1項参照）の通り推進する。

(2) 実務家の取り込み

技術応用活動（次9.2項参照）により，実務家の取り込みを推進する。

(3) その他

- ・各種行事等の場において入会促進ならびに広報活動を推進する。
- ・情報関連企業への電子メールによる学会紹介，IPJSJ メールニュースの充実当の広報活動を推進する。
- ・情報関連展示会の場において本会の活動を紹介する。
- ・ホテル，レンタカー等会員優待サービスの拡充に努める。

9．2 技術応用活動

実務家に向けた活動の活性化のため，実務家への学会のビジビリティ向上を一步進めて，ソフトウェアジャパン等の具体的な活動を学会へのポータルとして，実務家が集えるようなITプロフェッショナル・コミュニティ作りの推進を目指す。

「ソフトウェアジャパン2005」を実施する。

会期：平成17年10月下旬，会場：都内，参加予想：500名

実務家向けのホットなテーマを持ったワークショップ等を企画する。

引続き、会誌編集委員会と連携し、日経 IT プロのメルマガに会誌記事を掲載する。また、学会プロモーションビデオの充実更新を図る。

実務家が集える「IT プロフェッショナル・コミュニティ」による実務家の活動の支援を検討する。
新分野の拡大と人材の取込みについて IDG との連携を視野に諸施策を検討する。

9.3 運営の合理化等

(1) 公益法人改革への対応

公益法人の指導監督基準、および新公益法人会計基準に対応するため、内部牽制体制を充実させるとともに、17 年度以降の外部監査の導入に向けた諸対応を行う。

(2) 電子化の推進

ジャーナルの電子投稿を含めた査読支援システムの 3 次開発を行う。

研究報告、シンポジウム論文の電子投稿受付システムの構築を行う。

個人情報保護法の施行に伴うセキュリティ対策を実施する。

総合デジタルライブラリ会員制度導入を検討する。

英文ホームページを各業務担当理事の責任で充実する。

学会マネジメントシステムの機能強化 / ユーザビリティの改善を行うが、改修は必要最小限に留める。

9.4 支部活動

支部長会議を開催し、各支部活動の現況報告のほか、本部支部間の連絡要望等について審議、検討する。

支部総会、役員会、支部大会、電気関係学会連合大会等を開催する。

支部活動への支援として、支部総会への本部役員派遣、講演会講師の紹介、周年行事等への助成、支部役員選挙の同時実施等を継続する。

9.5 表彰等

功績賞

論文賞

長尾真記念特別賞（第 20 代長尾会長からの寄贈を得て研究開発奨励賞を改め、本賞を設置する。）

山下記念研究賞

大会優秀賞、大会奨励賞

優秀教育賞、優秀教材賞

業績賞

学会活動貢献賞

このほか、名誉会員の選定、フェローの認証、感謝状の贈呈等を行う。

以上